

平成26年度シラバス

科 目 名	経営学基礎論	科目分類	■第1グループ□第2グループ	
			経済	□必修 ■選択
			観光	□必修 ■選択
英文表記	The basic of management	開講年次	■1年(経済)■2年(観光)	
ふりがな	イ チョン ミン	開講期間	■前期□後期□通年□集中	
担当者名	李 廷 珉	修得単位	2単位	
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕企業と社会 〔テーマ〕社会における企業、組織体の役割とその危機			
準備学習	講義資料（講義時に配布）を事前に読んでおくことが望ましい。			
【授業概要】この講義では、社会における経営学の役割とその危機を念頭に置きながら、体系的に経営学について論じることを目標としている。たとえば、3.11以降のエネルギー問題ひとつをとってみても、原発事故は人々の努力の欠如にあり、また同時に、事後処理または解決もまた、人々の大きな努力に期待をするほかないのである。エネルギー節約の工夫にしても、新エネルギーの利用にしても、非常な技術開発の努力が必要となるわけであり、それを実行できるのは一個人ではなく組織である。多くの人々が協同する組織体でなければ、技術開発をし、実用化をしていくだけの実行力は持ちえないのである。つまり、経営問題であると考えることができるのである。				
授業計画				
第1回 経営学の方法				
第2回 アメリカ経営学の発展 ①科学的管理法				
第3回 アメリカ経営学の発展 ②人間関係論				
第4回 アメリカ経営学の発展 ③近代組織論				
第5回 組織論 ①バーナードの組織論				
第6回 組織論 ②サイモン意思決定論				
第7回 行動科学的な管理方法ー心理学と経営学の連携ー				
第8回 ドラッカーとチャンドラー				
第9回 内部組織の経済学				
第10回 企業形態の展開 ①合名会社、合資会社				
第11回 企業形態の展開 ②株式会社				
第12回 多国籍企業、グローバル企業				
第13回 所有と経営の分離				
第14回 経営理念と経営者の社会的責任				
第15回 NPO と社会的企業の存在理由				
第16回 期末試験				
テキスト	講義資料を配布する			
参考文献	講義中に紹介する			
評価の方法	定期試験＋授業態度(発言カード:3分の2以上の出席が単位認定の条件)			
学生への メッセージ	人は本をつくり、本は人をつくる。			

平成26年度 シラバス

科 目 名	経済学入門	科目分類	■第1グループ □第2グループ	
			経済学科	■必修 □選択
				□必修 □選択
英文表記	Introductory of Economics	開講年次	■1年□2年 □3年 □4年	
ふりがな	かべや のぶゆき	開講期間	■前期□後期 □通年 □集中	
担当者名	壁谷 順之	修得単位	2単位	
授業の到達目標 及びテーマ	私達は自分自身の日常的な行動を当然のように考えており、再考することは少ない。この講義を受講することで、自分自身の行動の背後にどのような経済的要因が隠されているのかを理解できるようになって欲しい。			
準備学習	高校の政治経済の教科書を再読しておいて欲しい。			
【授業概要】	経済学の分析対象が人や人の集合であることを意識し、人々の期待や不安、合理性が経済理論にどのように組み込まれているのかを積極的に解説します。			
授業計画				
第1回 テーマ：経済学とは何か？（講義資料配布） みなさんは、どのような経済学を学ぶのか？				
第2回 テーマ：経済の姿（講義資料配布） 小麦の種が国家予算となるまでの長いプロセス				
第3回 テーマ：経済の姿を映し出す方法（講義資料配布） GDPと三面等価の原則				
第4回 テーマ：経済の姿を映し出す方法（講義資料配布） 物価指数				
第5回 テーマ：家計と消費（講義資料配布） 消費関数と貯蓄関数				
第6回 テーマ：企業と生産①（講義資料配布） 生産関数の考え方。何故、原材料は考えないの？				
第7回 テーマ：企業と生産②（講義資料配布） 作りすぎれば損をする？				
第8回 テーマ：企業と生産③（講義資料配布） 大量生産すれば、安くできる。				
第9回 テーマ：市場メカニズム①（講義資料配布） 予算は10万円。欲しかった腕時計を5万円で買えた。				
第10回 テーマ：市場メカニズム②（講義資料配布） 市場の失敗と政府の役割。				
第11回 テーマ：政府の役割②（講義資料配布） 私的利益と社会的利益、公害に対する規制と課税				
第12回 テーマ：政府の役割③（講義資料配布） 電力会社は独占企業？独占禁止法に違反しないのは何故？				
第13回 テーマ：政府の役割④（講義資料配布） 所得再分配と税制度の面白さ				
第14回 テーマ：政府の役割⑤（講義資料配布） 公共事業の効果は、国民の将来に対する期待次第？				
第15回 テーマ：経済学の新しい視点（講義資料配布） 市場か組織化？ 人間は完全に合理的ではない。				
第16回 期末試験（試験範囲：第1回から第15回）				
テキスト	配布する講義資料。以下の文献を手元に置いて学習することを薦める。 伊藤元重『入門経済学』（第3版） 日本評論社、2009年			
参考文献	今喜典他『基本現代経済学』中央経済社、1992年（経済学の基本をコンパクトに解説。）			
評価の方法	期末試験 60%、課題（確認問題）30%、出席状況 10%の合計を基に評価する。 優:80%以上、良:70%以上、可:60%以上、不可:60%未満 試験については努力が報われるような出題を心がける。課題は必ず提出すること。			
学生への メッセージ	経済学についての好奇心を喚起し、さらに詳しく学びたいような授業としたい。			

平成 26 年度 シラバス

科 目 名	経済学史 I	科目分類	■第 1 グループ □第 2 グループ	
			経済	□必修 ■選択
英文表記	The History of Economic Thought II	開講年次	■ 1 年前期	
ふりがな	しまだ こうや	修得単位	2 単位	
担当者名	嶋田 耕也			
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕 学説によって社会の見方が変化するのを理解しよう。 〔テーマ〕 古典学派から新古典派へ			
準備学習	日頃の現実的な経済問題が経済学説に直結しています。学説史は皆さんの現実的な経済への関心によって理解が進みます。			
【授業概要】 アダム・スミスの経済学とは何か。それを引き継いだリカード、マルクスは何を発展させたのか。そして新古典派は、スミスの何を受け継ぎ、何を放棄したのか。				
授業計画				
第 1 回 経済学全体の大きな流れ				
第 2 回 アダム・スミス 経済学の父				
第 3 回 アダム・スミスと重商主義				
第 4 回 アダム・スミスの経済理論				
第 5 回 リカードの経済理論				
第 6 回 マルクスの経済理論				
第 7 回 マルクスの資本論				
第 8 回 新古典学派 ジェヴォンズ、ワルラス、メンガー				
第 9 回 効用価値学説と限界革命				
第 10 回 市場の経済学 1				
第 11 回 市場の経済学 2				
第 12 回 市場の経済学 3				
第 13 回 市場の経済学 4				
第 14 回 市場の経済学 5				
第 15 回 ケインズの登場				
第 16 回				
テキスト	使用せず。プリント配布、および板書。			
参考文献	授業時に指示します。			
評価の方法	出席回数とテストの点数。			
学生への メッセージ	18 世紀の経済学者、スミスを理解しよう。			

平成 26 年度 シラバス

科 目 名	情報科学	科目分類	■第 1 グループ □第 2 グループ	
			経済	□必修 ■選択
				□必修 □選択
英文表記	Introduction to Computer Science	開講年次	■ 1 年 □ 2 年 □ 3 年 □ 4 年	
ふりがな	すずき ひであき	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	鈴木 秀顕	修得単位	2 単位	
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕 情報の性質を理解し、その処理と表現方法を理解する。 〔テーマ〕 情報とは何か？を学びます。			
準備学習	情報と、経済や経営との関わりを捉えながら、進めていきます。経営の基礎的知識も必要となっていくしますので、社会の動向に興味を持ち、自分の意見を持つようにしてください。			
【授業概要】	情報大爆発時代といわれる現代において、情報を収集、整理、分析、最適化する能力の醸成が求められています。まずは、情報の主な取得源となる、コンピュータの仕組みや社会との関わりを捉えながら、自分の考えをまとめ、表現できるまでの基礎を学びます。			
授業計画				
第 1 回	ガイダンス			
第 2 回	情報の学び方 1			
第 3 回	情報の学び方 2			
第 4 回	情報倫理 1			
第 5 回	情報倫理 2			
第 6 回	情報ネットワークの枠組み			
第 7 回	コンピュータの仕組み			
第 8 回	情報を収集する 1			
第 9 回	情報を収集する 2			
第 10 回	情報を分析する 1			
第 11 回	情報を分析する 2			
第 12 回	情報を最適化する 1			
第 13 回	情報を最適化する 2			
第 14 回	情報を発信する			
第 15 回	情報技術と社会			
第 16 回	テスト			
テキスト	岡本敏雄『よくわかる情報リテラシー』（技術評論社）			
参考文献	川合慧著『情報』（東京大学出版会）			
評価の方法	テスト 50%、レポート 20%、出席 30%の割合で評価。			
学生への メッセージ	情報社会をきちんと捉え、大学生として必要な素養を学ぶことが望まれます。			

平成 26 年度 シラバス

科 目 名	簿記入門 I	科目分類	■ 第 1 グループ □ 第 2 グループ	
			経済	□ 必修 ■ 選択
				□ 必修 □ 選択
英文表記	An Introduction to Bookkeeping I	開講年次	■ 1 年（前期）	
ふりがな	くにい のりお	修得単位	4 単位	
担当者名	國 井 法 夫			
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕 日商簿記検定 3 級取得・簿記の知識を身につける。			
準備学習	身体で覚えるという気持ちで何回も問題演習をやること。			
授業概要	複式簿記の初歩から決算までを問題演習を行いながら段階的に学習する。			
授業計画				
第 1 回 簿記の意味・目的・種類		第 17 回 売掛金と買掛金(2)		
第 2 回 簿記の基礎概念(1)		第 18 回 その他の債権と債務(1)		
第 3 回 簿記の基礎概念(2)		第 19 回 その他の債権と債務(2)		
第 4 回 取引と勘定と仕訳(1)		第 20 回 手形(1) 約束手形 手形の裏書の処理		
第 5 回 取引と勘定と仕訳(2)		第 21 回 手形(2) 為替手形の処理 割引の処理		
第 6 回 帳簿の記入		第 22 回 有価証券・固定資産		
第 7 回 決算と財務諸表(1)		第 23 回 減価償却		
第 8 回 決算と財務諸表(2)		第 24 回 資本金と引出金		
第 9 回 現金預金取引(1)		第 25 回 収益と費用		
第 10 回 確認小テスト		第 26 回 税金、帳簿と伝票		
第 11 回 現金預金取引(2)		第 27 回 決算と財務諸表		
第 12 回 現金預金取引(3)		第 28 回 決算と財務諸表(3)		
第 13 回 商品売買(1)		第 29 回 決算と財務諸表(4)		
第 14 回 商品売買(2)		第 30 回 模擬試験		
第 15 回 模擬試験		第 31 回 テスト		
第 16 回 売掛金と買掛金(1)		第 32 回		
テキスト	プリント			
参考文献				
評価の方法	テスト・出席日数・課題提出・授業態度等で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	日商簿記 3 級を全員取得するように努力してもらいます。			

平成26年度 シラバス

科 目 名	ミクロ経済学Ⅱ	科目分類	■第1グループ □第2グループ	
			経済学科	□必修 ■選択
				□必修 □選択
英文表記	MicroeconomicsⅡ	開講年次	□1年■2年 □3年 □4年	
ふりがな	やまもと しゅん	開講期間	■前期□後期 □通年 □集中	
担当者名	山本 俊	修得単位	2単位	
授業の到達目標 及びテーマ	ミクロ経済学における生産理論及び市場理論を中心に学習し、発展的な学習に必要な基盤を養成する。経済学的な合理性について理解し、経済学的な視点を培って下さい。			
準備学習	①入門経済学・ミクロ経済学Ⅰを受講していることが望ましい。 ②高校2年生程度の数学を復習しておくことが望ましい。授業でも復習します。			
【授業概要】	この授業では、ミクロ経済理論の学習を通じて「考える力」の涵養を目指します。特に、ミクロ理論の中でも、消費理論を重点的に学習します。表面的理解だけでなく、その導出部分を数式展開も含め丁寧に解説することで、到達水準を低下させないように心がけます。			
授業計画				
第1回	テーマ：生産関数①（講義資料配布）	完全競争市場の仮定、生産関数の基礎		
第2回	テーマ：生産関数②（講義資料配布）	限界生産物逓減の法則、技術的限界代替率		
第3回	テーマ：生産関数③（講義資料配布）	生産技術、規模に関する収穫		
第4回	テーマ：費用関数①（講義資料配布）	費用関数、等費用曲線		
第5回	テーマ：費用関数②（講義資料配布）	平均費用関数、規模の経済性、規模弾力性		
第6回	テーマ：費用関数③（講義資料配布）	費用最小化、限界費用関数、供給曲線		
第7回	テーマ：利潤最大化と市場構造①（講義資料配布）	損益分岐点、操業停止点、利潤最大化行動		
第8回	テーマ：利潤最大化と市場構造②（講義資料配布）	不完全競争市場での利潤最大化行動、逆需要関数		
第9回	テーマ：利潤最大化と市場構造③（講義資料配布）	市場構造の分類、価格支配力、余剰分析		
第10回	テーマ：同質財市場における企業間競争①（講義資料配布）	クールノー競争と最適反応関数		
第11回	テーマ：同質財市場における企業間競争②（講義資料配布）	カルテルと囚人のジレンマ		
第12回	テーマ：同質財市場における企業間競争③（講義資料配布）	ベルトラン競争		
第13回	テーマ：同質財市場における企業間競争④（講義資料配布）	シュタッケルベルグ競争		
第14回	テーマ：差別型市場における企業間競争（講義資料配布）	独占的競争		
第15回	テーマ：市場の失敗（講義資料配布）	公共財、外部不経済、自然独占		
第16回	期末試験（試験範囲：第1回から第15回）			
テキスト	配布する講義資料。以下の文献を手元に置いて学習することを薦める。 井堀利宏『入門経済学』（第2版） 新世社、2006年			
参考文献	山崎昭『ミクロ経済学』知泉書館、2006年（上級への架け橋としてよい）			
評価の方法	期末試験60%、課題（確認問題）30%、出席状況10%の合計を基に評価する。 優:80%以上、良:70%以上、可:60%以上、不可:60%未満 試験については努力が報われるような出題を心がける。課題は必ず提出すること。			
学生への メッセージ	ミクロ経済学はマクロ経済学とともに、経済学の基盤を形成しています。ミクロ経済学を学ぶことで、我々の合理性を再認識し、自らの意思決定に生かして欲しい。			

平成 26 年度シラバス

科 目 名	流通経営論	科目分類	■第 1 グループ□第 2 グループ	
			経済	□必修 ■選択
				□必修 □選択
英文表記	Distribution and Management	開講年次	□ 1 年■ 2 年□ 3 年□ 4 年	
ふりがな	イ チョン ミン	開講期間	■前期□後期□通年□集中	
担当者名	李 廷 珉	修得単位	2 単位	
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕 この講義を受講し就職活動に活かそう！ 〔テーマ〕 流通業で働くうえで必要なビジネスの知識を習得しよう！			
準備学習	講義資料（講義時に配布）を事前に読んでおくことが望ましい。			
【授業概要】 この講義は、流通業の経営と仕事について、個別企業の事例研究を通じて、その基本的な知識と考え方、ビジネスモデルなどをわかりやすく解説することを目的とします。従って、この講義での主眼はあくまでも、流通業で働くうえで必要なビジネスの知識であり、「経営と仕事」の観点から考えていきます。若手の従業員であっても、会社全体の経営の観点から仕事を進めることは非常に重要だと考えるからです。流通業界への就職をめざしている学生諸君にとって、受講は必須です。				
授業計画				
第 1 回 企業とは、経営とは				
第 2 回 仕事は権限ではなく役割				
第 3 回 品ぞろえの基準				
第 4 回 不良在庫と機会損失				
第 5 回 自前主義か、外部委託か				
第 6 回 「なぜ？」から仕事は始まる				
第 7 回 消費はモノからサービスへ				
第 8 回 加速する流通再編、上位集中				
第 9 回 流通経営を左右する 5 つのキーワード				
第 10 回 事例研究 ①コンビニエンスストア				
第 11 回 事例研究 ②コンビニエンスストア				
第 12 回 事例研究 ③ユニクロー経営者の役割ー				
第 13 回 事例研究 ④ユニクロービジネスモデルー				
第 14 回 事例研究 ⑤ユニクローグローバル戦略ー				
第 15 回 統括				
第 16 回 期末試験				
テキスト	講義資料を配布する			
参考文献	講義中に紹介する			
評価の方法	定期試験＋授業態度(発言カード:3 分の 2 以上の出席が単位認定の条件)			
学生への メッセージ	人は本をつくり、本は人をつくる。			

平成26年度 シラバス

科 目 名	国際金融論	科目分類	■第1グループ □第2グループ	
			経済	□必修 ■選択
英文表記	International Finance	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年	
ふりがな	まえだ なおや	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	前田 直哉	修得単位	2単位	
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕国際金融の基礎理論を理解する。 〔テーマ〕国際金融と外国為替			
準備学習	講義前に予習、講義後に復習を必ず行うこと。			
【授業概要】	21世紀に入り、金融のグローバル化が加速度的に進んでいる。劇的な変化を見せる国際金融の現状を理解するためには、国際金融の基礎理論のみならず、その歴史・制度についても幅広く知ることが必要である。本講義の目的は、国際金融の基礎理論を理解することにある。			
授業計画				
第1回 ガイダンス～国際決済と外国為替①：決済システム、バランスシートで見る決済				
第2回 国際決済と外国為替②：外国為替、外国為替取引と銀行間決済、外国為替円決済制度				
第3回 外国為替市場：外国為替市場の構成、24時間市場、銀行間市場、銀行の為替持高・資金操作				
第4回 外国為替取引と為替相場①：銀行間相場と対顧客相場、基準相場、クロス相場、裁定相場				
第5回 外国為替取引と為替相場②：名目為替相場、実質為替相場、実効為替相場直物取引と先物取引、アウトライイト取引とスワップ取引				
第6回 金利裁定取引：カバー付き金利裁定取引、直物相場、スワップレート(直先スプレッド)、先物相場、ディスカウント(プレミアム)率				
第7回 為替相場の決定理論①：絶対的購買力平価と相対的購買力平価				
第8回 為替相場の決定理論②：バラッサ＝サミュエルソン効果				
第9回 為替相場の決定理論③：カバーなし金利平価と内外資産の完全代替性				
第10回 中間試験				
第11回 為替相場の決定理論④：外国為替市場の均衡				
第12回 為替相場の決定理論⑤：外国為替市場と貨幣市場の同時均衡				
第13回 為替相場の決定理論⑥：オーバーシュート・モデル				
第14回 為替相場の決定理論⑦：内外資産の不完全代替性とリスクプレミアム				
第15回 為替相場の決定理論⑧：ポートフォリオ・バランス・アプローチ				
第16回 定期試験				
テキスト	適宜、レジュメを配布する。			
参考文献	特になし。			
評価の方法	定期試験、中間試験、平常点			
学生への メッセージ	講義の進め方と成績評価方法については、初回のガイダンスで詳しく説明するが、特に講義進行を著しく妨げるような行為や不良な受講態度に対しては、然るべき処置を取る。			

平成26年度 シラバス

科 目 名	国際経済学Ⅰ	科目分類	■第1グループ □第2グループ	
			経済	□必修 ■選択
英文表記	International EconomicsⅠ	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年	
ふりがな	まえだ なおや	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	前田 直哉	修得単位	2単位	
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕国際収支と為替レートの基礎理論を理解する。 〔テーマ〕国際収支と為替レート			
準備学習	講義前に予習、講義後に復習を必ず行うこと。			
【授業概要】	21世紀に入り、経済のグローバル化が急速に進んでいる。この現象を理解するためには、国際経済学の理論のみならず、その歴史・制度についても学習することが必要である。本講義の目的は、国際収支と為替レートとの基礎理論を学ぶことにある。			
授業計画				
第1回 ガイダンス～国民経済計算と国際収支				
第2回 国際収支表の見方①：国際収支統計の項目と分類				
第3回 国際収支表の見方②：国際収支統計と複式簿記、対外資産負債残高				
第4回 為替レートと経常収支①：弾力性アプローチ、Jカーブ効果				
第5回 為替レートと経常収支②：為替相場のパススルーと企業のPTM行動、アブソープション・アプローチ				
第6回 為替レートと経常収支③：マネタリー・アプローチ、ISバランス・アプローチ				
第7回 開放経済における国民所得決定①：45度線分析				
第8回 開放経済における国民所得決定②：外国貿易乗数				
第9回 開放経済における国民所得決定③：輸出増、政府支出増の貿易収支に与える効果				
第10回 中間試験				
第11回 為替レートと為替相場制度：為替政策の範囲と目的、国際金融のトリレンマ				
第12回 国際マクロ政策①：IS・LMモデルにおける財政・金融政策の効果				
第13回 国際マクロ政策②：マンデル＝フレミング・モデル				
第14回 国際マクロ政策③：固定相場制、変動相場の下での財政政策の効果				
第15回 国際マクロ政策④：固定相場制、変動相場の下での金融政策の効果				
第16回 定期試験				
テキスト	適宜、レジュメを配布する。			
参考文献	特になし。			
評価の方法	定期試験、中間試験、平常点			
学生への メッセージ	講義の進め方と成績評価方法については、初回のガイダンスで詳しく説明するが、特に講義進行を著しく妨げるような行為や不良な受講態度に対しては、然るべき処置を取る。			

平成 2 6 年 度 シラバス

科 目 名	マーケティング 基礎論	科目分類	■第1グループ □第2グループ	
			経済	□必修 ■選択
				□必修 □選択
英文表記	Marketing Basics	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年	
ふりがな	すずき ひであき	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	鈴木 秀顕	修得単位	2単位	
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕 マーケティングに関する基礎知識の獲得 〔テーマ〕 マーケティングの基礎を学びます。			
準備学習	テーマに関する予習をしてから参加するようにしてください。			
【授業概要】	マーケティングは、売れ続ける仕組みを作ることであり、私たちが住むこの社会においては、大切な役割を果たす考え方です。本講義では、マーケティングの基礎的知識から、実践的取り組みに至るまでを学んでいきます。			
授業計画				
第1回	ガイダンス（マーケティングとは）			
第2回	マーケティングの選択肢			
第3回	マーケティングと戦略の違い			
第4回	マーケティング戦略			
第5回	顧客志向マーケティング			
第6回	マーケティング環境分析①（PEST）			
第7回	マーケティング環境分析②（バリューチェーン）			
第8回	マーケティング環境分析③（3C）			
第9回	マーケティング環境分析④（SWOT）			
第10回	ターゲット市場の選定			
第11回	マーケティング・ミックスの最適化①（製品戦略）			
第12回	マーケティング・ミックスの最適化②（価格戦略）			
第13回	マーケティング・ミックスの最適化③（流通戦略）			
第14回	マーケティングの実践①			
第15回	マーケティングの実践②			
第16回	テスト			
テキスト	池上重輔『マーケティングの実践教科書』（日本能率協会マネジメントセンター）			
参考文献	石井淳蔵／廣田章光『1からのマーケティング』（中央経済社）			
評価の方法	テスト50%、レポート20%、出席30%の割合で評価。			
学生への メッセージ	出席、積極性を重視します。			

平成26年度 シラバス

科 目 名	現代ファイナンス論Ⅰ	科目分類	■第1グループ □第2グループ	
			経済学科	□必修 ■選択
				□必修 □選択
英文表記	Theory of Modern FinanceⅠ	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年	
ふりがな	やまもと しゅん	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	山本 俊	修得単位	2単位	
授業の到達目標 及びテーマ	ファイナンスの基本を身につけ、現実の金融取引の仕組みや新聞の金融記事を理解できるようになること。ファイナンスの主体的学習を可能にすること。			
準備学習	高校数学（特に、数列、微分）の復習。ただし、前提にはしない。授業でもその都度説明する。数学が苦手な受講者はこの際に習得して欲しい。			
【授業概要】	この授業では主に金融の仕組み、基本ツール、金融市場、リスクの基本を学習する。つまり、各論を学ぶ「現代ファイナンス論Ⅱ」や「銀行の業務」の基礎科目として位置付けることができる。また、確認問題を定期的に配布するので、解答後に提出して欲しい。			
授業計画				
第1回 テーマ：金融の仕組み①（講義資料配布） 金融の主体と資金循環、金融の方式と機能				
第2回 テーマ：金融の仕組み②（講義資料配布） 金融仲介と金融機関、貨幣の機能				
第3回 テーマ：金融の基本的な考え方①（講義資料配布） 利子率（名目・実質）、フィッシャー仮説				
第4回 テーマ：金融の基本的な考え方②（講義資料配布） 貨幣の時間価値、2つの投資の評価方法の基礎				
第5回 テーマ：金融の基本的な考え方③（講義資料配布） 割引債の利回りと価格				
第6回 テーマ：金融の基本的な考え方④（講義資料配布） 利付債の利回りと価格				
第7回 テーマ：金融の基本的な考え方⑤（講義資料配布） 金利の期間構造理論、イールドカーブ				
第8回 テーマ：金融の基本的な考え方⑥（講義資料配布） 株価の決定、DDM モデル				
第9回 テーマ：金融派生商品の基本①（講義資料配布） 金融派生商品の特性、先物・先渡取引				
第10回 テーマ：金融派生商品の基本②（講義資料配布） スワップ取引、オプション取引				
第11回 テーマ：企業金融の基本①（講義資料配布） 企業の投資行動				
第12回 テーマ：企業金融の基本②（講義資料配布） MM 理論の考え方				
第13回 テーマ：企業金融の基本③（講義資料配布） 資本市場の不完全性と MM 理論				
第14回 テーマ：リスクの基本①（講義資料配布） 期待収益率と標準偏差				
第15回 テーマ：リスクの基本②（講義資料配布） ポートフォリオと相関係数				
第16回 期末試験（試験範囲：第1回から第15回）				
テキスト	講義資料を配布する。以下の文献を手元に置いて学習することを薦める。 晝間文彦(2011)『基礎コース金融論』（第3版）新世社			
参考文献	ボディ・マートン(2000)『現代ファイナンス論』（原著第2版）ピアソン桐原、2011年			
評価の方法	期末試験 60%、課題（確認問題）30%、出席状況 10%の合計を基に評価する。 優:80%以上、良:70%以上、可:60%以上、不可:60%未満 試験については努力が報われるような出題を心がける。課題は必ず提出すること。			
学生への メッセージ	どのような分野で活躍するにも金融の基本事項は必須であるので、多くの受講者を歓迎する。この授業では、新しい知識を習得すること以上に、考えるプロセスを重視する。			

平成26年度 シラバス

科 目 名	経済政策学（経済政策のしくみ）	科目分類	■第1グループ □第2グループ	
			経済	□必修 ■選択
英文表記	Policy of Economy	開講年次	□1年 □2年 ■3年 ■4年	
ふりがな	のぐち ひでゆき	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	野口 秀行	修得単位	2 単位	
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕 21世紀の日本経済の行方 〔テーマ〕 日経新聞が理解できる社会人に。			
準備学習	・常に復習しておくこと			
【授業概要】日本経済の復活と経済政策との関連を学ぶとともに、今後予想される総人口の減少、地球温暖化などの環境制約、資源制約、BRICSの台頭など、日本経済を取り巻く諸課題を克服していくための経済政策について検討する。				
授業計画				
第1回 戦後の日本経済の復興とそれを支えた経済政策				
第2回 臨海工業団地の創生とその背景～発想の転換・東北の失敗				
第3回 太平洋戦争の失敗から生まれた日本工業規格～失敗学のすすめ				
第4回 1950年代に創業した企業群と高度成長～マインド・セットとは				
第5回 オイルショックと産業構造転換～重厚長大→軽薄短小→知識・情報へ				
第6回 ジャパンアズナンバーワンと日米欧の貿易戦争（トップになれなかった日本）				
第7回 ビル・エモット「日はまた沈む」～バブル経済の破綻とビル・エモット「日はまた昇る」				
第8回 少子高齢化と科学技術創造立国への産業政策の大転換				
第9回 1995年の阪神淡路大震災と超円高そして世界的な金融資産の膨張の関係				
第10回 世界的なバブル経済とその破綻としてのリーマンショック				
第11回 金融危機を招いたCDSとその仕組み				
第12回 リーマンショック後の世界経済のパラダイムシフト・中国のバブル・ユーロの解体				
第13回 中国をはじめとするBRICSの台頭と日中韓FTA				
第14回 TPPと日本経済～TPPにより日本経済はどう変化していくのか				
第15回 アベノミクスとは～リフレ派と構造派				
第16回 期末試験				
テキスト	プリント配布			
参考文献	追って連絡します			
評価の方法	期中のレポートおよび期末試験の結果を総合して判断します。			
学生への メッセージ	経済を面白く楽しく学びます			

平成 26 年度 シラバス

科 目 名	コミュニティ・ビジネス論 (コミュニティ・ビジネス)	科目分類	■第 1 グループ □第 2 グループ	
			経済	□必修 ■選択
英文表記	Community Business	開講年次	□ 1 年 □ 2 年 ■ 3 年 □ 4 年	
ふりがな	のぐち ひでゆき	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中	
担当者名	野口 秀行	修得単位	2 単位	
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕 オールタナティブ・エコノミーの最先端を学ぶ 〔テーマ〕 コミュニティ・ビジネスが地域を活性化する			
準備学習	・ 事前配布のプリントに目を通しておくこと			
【授業概要】 コミュニティ・ビジネスの目的は、住民主体のスモールビジネスを導入し、コミュニティに存在する様々な問題の解決に貢献することにあるが、それはボランティアと企業の間間的な領域に位置しているものであり、地域社会のネットワークに支えられて成立しうるものでもある。各地で芽吹きつつあるコミュニティ・ビジネスは、バランスの取れた経済社会の発展を支えるという側面からみても、社会的な意義は大きいといえる。				
授業計画				
第 1 回	コミュニティ・ビジネスとは			
第 2 回	もう一つの経済（ノン・プロフィット・エコノミー）が果たす役割			
第 3 回	NPO とコミュニティ・ビジネス～地域を変える力とは			
第 4 回	欧米におけるコミュニティ・ビジネスの事例～豊かさを実感できる社会の構築			
第 5 回	我が国におけるコミュニティ・ビジネスの事例～いま地方が面白い！			
第 6 回	コミュニティビジネス・スモールビジネス・ソーシャルビジネスの違い			
第 7 回	我が国における起業環境とベンチャーファンド～PEF 及びBOFを中心に			
第 8 回	伝統的中小企業論と 21 世紀型の中小企業論～特に技術論を中心に			
第 9 回	モバゲー論の虚実～金型産業を事例に我が国の中小企業のグローバル化を考える			
第 10 回	地域金融論～欧米の多様なコミュニティ・ファイナンス			
第 11 回	我が国における地域金融論～地域金融のビッグバン			
第 12 回	我が国におけるコミュニティ・ファイナンスの事例（1）			
第 13 回	NPOバンクについて			
第 14 回	ソーシャルビジネス・老舗企業が地域経済を変える			
第 15 回	ソーシャルビジネス・老舗企業の事例			
第 16 回	期末試験			
テキスト	プリント配布			
参考文献	追って連絡します			
評価の方法	期中のレポートおよび期末試験の結果を総合して判断します。			
学生への メッセージ	本講義では、コミュニティ・ビジネスとそれを支えるコミュニティ・ファイナンスについて学びます。			

平成 26 年度シラバス

科 目 名	経営戦略論	科目分類	■第1グループ□第2グループ	
			経済	□必修 ■選択
英文表記	Corporate Strategy	開講年次	□1年□2年■3年□4年	
ふりがな	イ チョン ミン	開講期間	■前期□後期□通年□集中	
担当者名	李 廷 珉	修得単位	2単位	
授業の到達目標 及びテーマ	〔到達目標〕 戦略的思考を身につけ就職活動に役立てる 〔テーマ〕 グローバル企業の戦略（型）経営			
準備学習	講義資料（講義時に配布）を事前に読んでおくことが望ましい。			
【授業概要】経営史家として有名なチャンドラーによれば、戦略（strategy：ストラテジー）とは、「長期的な目標を定め、それをいかに達成するかという方針」のことです。したがって、戦略は何も取締役などの経営陣や経営企画部などの管理担当者だけに必要なものではなく、全社的に意識を高めるという点であらゆる部署の担当者にも必ず必要なものです。本講義では、こうした経営戦略の理論的かつ実践的側面の両義性の理解を強調したく、企業業績を産業構造的要因や競争環境要因に求め、経営戦略論の研究の発展に貢献したポーター教授の業績をわかりやすく解説します。				
授業計画				
第1回 インTRODクシヨン				
第2回 戦略の理解				
第3回 経営環境の理解－SWOT 分析－				
第4回 経営環境の理解－外部環境の分析－				
第5回 経営環境の理解－内部環境の分析－				
第6回 事業ドメインの確立				
第7回 成長戦略－製品・市場マトリックス				
第8回 成長戦略－プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント（PPM）				
第9回 競争戦略－ポーター教授と競争戦略の意義－				
第10回 競争戦略－業界分析（five forces analysis）				
第11回 競争戦略－3つの基本戦略－				
第12回 競争戦略－価値連鎖（value chain）と戦略的ポジションニング－				
第13回 競争戦略－経営戦略研究の最近の動向について（RBV の考え方との関連で）－				
第14回 戦略実行とコントロール				
第15回 復習・総括				
第16回 期末試験				
テキスト	講義資料を配布する			
参考文献	講義中に紹介する			
評価の方法	定期試験＋授業態度（発言カード:3分の2以上の出席が単位認定の条件）			
学生への メッセージ	人は本をつくり、本は人をつくる。			